



# 朝日新聞

5月21日付け・朝刊より

# 中日新聞

5月21日付け・朝刊より

## 地域の発熱相談センター

名古屋市健康増進課	052・972・2631
名古屋市健康増進課	052・251・4522
名古屋市健康増進課	(午後7時～午前9時)
千種保健所	052・753・1982
東保健所	052・934・1218
北保健所	052・917・6552
西保健所	052・523・4618
中村保健所	052・481・2295
中保健所	052・251・4568
昭和保健所	052・735・3964
瑞穂保健所	052・837・3264
熱田保健所	052・683・9683
中川保健所	052・363・4463
港保健所	052・651・6537
南保健所	052・614・2814
守山保健所	052・796・4623
緑保健所	052・891・3623
名東保健所	052・778・3114
白鳥保健所	052・807・3912

## 外郭団体委託を批判

### 河村市長 民間参入を促す

名古屋市の河村たかし市長は20日、放課後の子どもを小一プラン」のモデル校の市立弥

「放課後子どもプラン」を視察

富小(瑞穂区)を視察した。河村市長は、この事業を市が外郭団体に一括で委託していることを批判し、地域や学校ごとに分け、民間からの参入を促す考えを示した。

名古屋市には、もともと放課後の子どもに遊び場を提供する市の「トワイライトスクール」と、共働きの家庭の子どもを対象にした民間の学童保育所がある。「放課後子どもプラン」はその二つの機能をあわせたもの。教員OBらが多い外郭団体が随意契約で受注し、4月から市内8校で事業を始めた。河村市長は「トワイライトスクールと学童保育を一元化し、競争を通じて民間団体に委託する」と公約に掲げていた。視察では「校庭や校舎は市民の財産。みんなが同じチャンスをもつて参画できる環境を整えたい」と話した。

## 放課後子どもプラン視察

## 民間参入促進を表明

市長

河村たかし市長は二日、瑞穂区の弥富小学校を訪れ、市内小学校八校で四月からモデル事業が始まった「放課後子どもプラン」の現場を視察。「みんなが参画できる環境を整えたい」と述べ、外郭団体に一括で委託している現在の方法を見直し、民間参入を促す考えを示した。

事業団だけがやるのはおかしい」と、教員OBが多い市教育スポーツ振興事業団への委託に疑問を呈した。

放課後子どもプランでは、全児童を対象に

夕方まで校内で過ごす「トワイライトスクール」と、留守家庭児童向けの「学童保育」を一本化する。午後五時以降を有料化したほか、現場責任者を教員OBに限定し、保護者

が中心となって運営している学童保育が事実



放課後子どもプランに参加する児童と一緒におやつを食べる河村市長＝瑞穂区の弥富小学校で

上閉鎖に追い込まれるため反発が大きい。河村市長は「学童保育の人たちが参画できるようにしないとフェアじゃない。地域の老人会でもいいし、塾が経営してもいい。競争性を持たせるのは当たり前」と語った。市長はマニフェストでも「競争を通じて適切な民間団体に委託する」としている。

モデル事業は当初十六校の予定だったが、八校でスタートし、九月から八校増やす方針。同事業団に約一億

円で委託し、一校あたり約千二百五十万円で運営している。

小学一―三年の児童十三人とおやつを一緒に食べた河村市長。視